

問

この度の降雹や豪雨による被害状況は

町長 農作物の被害は約1300haに

問今年6月から7月にかけての降雹や集中豪雨により、道路や河川さらには農作物や農地に大きな被害をもたらしたがこの被害状況は。

町長この度の自然災害で、農作物被害は約1300ha、農地被害は約80haに上る。農作物は玉ねぎを中心に一部廃耕（9月1日時点で約430ha）せざるを得ない状況。道路・

災害や災害復旧時の重機などの確保は

河川については、道路83か所、河川33か所である。復旧については現段階で6割程度終わっている。今後、農業用施設災害復旧事業や単独災害復旧事業により、今年度内の復旧に向けて準備を進めている。

検討は。

町長今回の被災については個所数が多く、直

営での対応は時間がかかるため、町内業者の重機借り上げや建設業協会との災害協定により、緊急の復旧工事をしてきた。また、町内で工事施工中の建設業者も、道路の土砂撤去や清掃、排水路の土砂

自然災害の甚大な被害を極力繰り返さない対策を

上げなどを行ってきたが、過去に例を見ない被害箇所があり、不十分さを感じる方もいることは理解している。今後は限られた資源の有効活用、町内事業者との協議、町外事業者との協議、町外事業

者も視野に検討したい。**農地災害復旧助成事業などの現状は**

問「農地災害復旧助成事業」「土づくり対策支援事業」の現状は。

町長「農地災害復旧助成事業」は既に予算額（1千万円）を超えるの見通しになっているので、追加補正の提案を

考えている。「降ひょう被害土づくり対策支援事業」については緑肥種子にこだわらず、かかり増し経費に対する支援を望む声が出され、関係機関とも協議を行い、本議会にメニューの追加（1千万円）を提案した。

定期的な危険個所の点検・整備の実施は

問今後、中・小河川や町道の危険個所の定期点検や整備の考えは。

また、現在進めている第6次訓子府町総合計画の中に、後期に向けて取り組む課題の一つにする考えは。

町長危険個所の点検は今後も地域と共有しながら対応していく。今回の災害で新たな危険度の高い箇所が見されたので、被災防止の工法検討と財源確保に向け検討したい。

第6次訓子府町総合計画後期プロジェクトでも取り組む課題の一つでもあると捉えている。



6月から7月にかけての豪雨による道路の被害



工藤議員の一般質問を視聴できます